JOES Davos Next 2023

～ GLOBAL STUDENT SUMMIT ～

Davos Next 2023への道

基調講演講師インタビュー①

笹川平和財団海洋政策研究所所長

阪口秀博士

JOES Davos Nextは、二年目のイベントに向けて動きだしました。

今回、基調講演の講師に迎えるのは阪口秀博士。海洋政策研究所所長として、世界の国々が抱える課題の解決のために世界中を飛び回る、自称「営業マン」。精悍（せいかん）な風貌から次々に繰り出されることばは、海の専門家として地球の未来を憂いつつ、それに立ち向かう熱意にあふれていました。

「JOES Davos Nextは、海のことを子どもたちに知ってもらう大切な場」と語る阪口博士に聞く第一回をお届けします。

（只木良枝）

基調講演のオファーがあったとき、どう思いましたか。

最初は、科学者が自分の半生や研究内容について語り、子どもたちがそれを聞いて学ぶイベントだと思っていました。でも事務局のかたがたと話すうちに、たんなるレクチャーではなく、子どもたち自身が考え、ディスカッションし、ネットワークをつくる場を提供するための基調講演ということがわかりました。そうした子どもたちの学びの場に問題提起するための講演であれば、ぜひともお引き受けしようと思いました。私が何かを教えるというよりも、子どもたちといっしょに考えていきたいです。

これまで海にかかわるどのような研究を？

前職は国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）で、海洋のさまざまな分野の研究者といっしょに、海洋観測の技術開発や、海底地震の数値シミュレーションの研究をしていました。

現在のお仕事は、海洋政策が中心ですね。

海洋政策研究所に着任してからは、地球温暖化や海洋プラスチック問題をはじめとする世界の海にかかわる重要課題を解決するために、各国の政治家や研究者と対策を議論し、実践に導くのがおもな仕事です。

地球規模の問題だけでなく、それぞれの国の課題も考える必要があります。たとえば日本は島国で、日常の食料や資源の多くを海運に依存しています。それを担う船をスムーズに運行するためには、船舶・船員はじめ多くの条件が整う必要があります。

地球環境、そして日々の暮らしの一部として、海のことをより深く知っておく必要があります。

今回は、アフリカの子どもたちも参加する予定です。

アフリカ大陸はとても広く、自然環境はじつに多様です。地形的に沿岸よりも内陸の台地のほうが住みやすく、海をまったく見たことがない人も多いでしょう。魚といえば、海よりも湖や川の魚になじみがあるかもしれません。

現在著しく経済発展するアフリカで、環境問題に対して何も対策をとらなければ、五十年ほど前の高度経済成長期の日本のように泳げないほど海や川を汚してしまうかもしれません。自然破壊を繰り返さないためにどうしたらよいか、次の五十年を担う子どもたちが過去を学び、未来を考えてほしいと、せつに願っています。

自分の国、ただ一国の利害だけではなく、世界全体のことを考えることは、海洋政策のなかで最も重要です。遠く離れた日本とアフリカであっても、いま、抱えている問題をいっしょに考えることができるような協力関係を創り上げてほしいです。